

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設 基本設計市民説明会(3回目)	日時	令和2年2月15日(土) 14:00~16:00	場所	中町桜並集会所 集会室A B
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	31人(うち市議会議員4人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 基本設計の経過報告について</p> <p>4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 敷地内の路面の勾配はどうなっているか。 【株式会社佐藤総合計画】 西側は土を盛り、道路側とレベルを合わせる想定としている。敷地内の勾配や段差はほとんどなくフラットな計画と考えている。</p> <p>【市民B】 小金井市は至る所に緑の公園がある中で、屋上庭園をわざわざ作る必要はないのではないか。 【株式会社佐藤総合計画】 基本計画、市民ワークショップや市民説明会を行う中で緑やひろばに対する意見が多くあった。なるべく敷地に多くの緑を設けるため、日当たりのよい(仮称)新福祉社会館の屋上にひろばとして植栽を置くことを計画している。</p> <p>【市民B】 災害時を想定し、太陽光発電といった創エネルギーは想定しているのか。 【株式会社佐藤総合計画】 電気、ガスといった複数のエネルギーで計画している。建物の屋上部分にソーラーパネルの設置を計画しており、今後の検討の中で増減することはあるが、現在、発電設備は80kWを計画している。平常時は、電気室に電気を供給し、災害時においても電気が活用できるように想定している。 【公共施設マネジメント推進担当課長】 電力は、国土交通省の官庁施設の総合耐震計画基準に照らし、2回線の引き込みを検討しており、災害時にも途絶えることのないよう設計していく考えである。</p> <p>【市民C】 敷地の外部からの歩行者の動線について、高架下を通ることはできるのか。 【株式会社佐藤総合計画】 建物の主出入口は敷地の中央を想定している。建物へのアクセスとして、西側の緑中央通りからのアクセスも考えられるので、西側にも出入口を設けている。北側からアクセスした場合は、臨時駐車場と北側道路の間の横断歩道を通してアクセスすることもできる計画としている。</p> <p>【市民D】 小金井ひろば、駐車場、駐輪場の面積は、どの程度か。現庁舎の駐車場台数と駐輪台数は何台か。敷地周辺には、人口が密集しているにもかかわらず、公園がない。庁舎建設予定地は、周辺の保育園の遊び場や自治会のイベントで使われており、敷地内に広場を確保していただきたい。</p>				

【株式会社佐藤総合計画】

ビロティ空間を含めたオープンスペースとして、5,000㎡以上確保している。また、屋上庭園として約700㎡確保している。緑は、南側と東側に既存の樹木をなるべく残し、確保する計画としている。歩行できる部分のみの面積については今後示していく。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

現庁舎の駐車台数は、本庁舎と第二庁舎合わせて約80台であり、駐輪台数は、約400台程度は止められる。

【市民E】

建設後は、暫定広場でボール遊びや自転車の練習等はできなくなるのか。また、それに対する対応はどのように考えているか。

【庁舎建設等担当部長】

現在、暫定広場を多くの方々が使用していることは理解するところではあるが、庁舎建設予定地に新庁舎・(仮称)新福祉会館を建設し、一定の駐車台数を確保することを考えると、暫定広場のような使い方は制限されることはご理解いただきたい。その上で、この間設計を進める中で臨時駐車場を人が集えるひろばとしたり、屋上庭園を設えることとした。

【市長】

庁舎建設予定地として取得した敷地であり、庁舎建設までの間は暫定広場として活用してきた。現在、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設の検討を行っている状況である。ひろばの利用は、本敷地に現状と同じような面積を確保することは難しく、同様の利用も難しい。本敷地以外の既存施設の活用や、今後のまちづくりの検討に合わせて考えていく必要があると考えている。

【市民E】

駐車場の台数の根拠はあるのか。また、緑中央通りの交通量が増えることによる通学路への影響は考えているか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

駐車台数は、現庁舎の駐車場台数と稼働率等を調べ、通常期の月平均で30%程度、繁忙期の時間帯によっては40%を超えるような状況を確認した。稼働率や今後の繁忙期、(仮称)新福祉会館の利用等を考慮すると、駐車台数は一定増えていくものと考えている。また、前面道路の交通渋滞を回避するためにも一定の駐車場台数は確保すべきと考え、設計者と協議し、現在の計画とした。

【市民F】

庁舎と(仮称)新福祉会館の構造形式が異なるものを重ね合わせることでデメリットはないのか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎は、発災時にも機能を維持しなければいけないため、免震構造としている。(仮称)新福祉会館は、耐震構造としている。免震構造はゴムの上に乗っているためゆっくり揺れ、耐震構造は地面の上に建っているので、耐震性は確保されているが地面と同じ揺れ方をする。ふたつの建物の揺れ方は異なるため、免震構造と耐震構造の接している部分は60cmほどの空間があり、揺れの違いを解消する計画としている。建物が接している空間はエキスパンションジョイントというふたを設置することにより、利用には影響のないような計画としている。

【市民G】

隣のマンションに住んでいる者だが、マンション敷地の通り抜けが気になる。武蔵小金井駅から、緑中央通りまでのJR高架下の開発行為についての協議状況はいかがか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

所管部署が異なるが、JR東日本八王子支社と開発に向けた協議は継続して行っていると伺っている。

【市民H】

概算費用84.4億円の内訳を教えてください。基本設計での概算と実施設計での概算のブレは大きくあるのか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎、(仮称)新福祉会館、Ⅱ期工事までの外構整備を含めた概算費用である。現在の建設物価を加味した基本概算を行っている。基本設計から実施設計のブレは1割以内に抑えられると考えている。ただし、建設業界の状況から言うと、建設資材は上がっているのは事実であり、働き方改革に伴い人件費は高騰している。実施設計の中で建設物価を注視し、検討してまいりたい。

【市民I】

地下の深さはどのくらいか。

【株式会社佐藤総合計画】

地下は5 mの階高を想定している。その下に、地中梁が2 mほどあり、合計7 mほどを想定している。地中梁の間を利用し、雨水貯留槽を設置することを考えている。

【市民I】

地下水が地下10 mくらいの位置を通過しており、建物が地下水を遮断することはないか。また、工事期間に遮断することはないか。

【株式会社佐藤総合計画】

建物が地下水を遮断することはないと考えている。山留壁についても大きくないため影響はなく、工事終了後は抜くことになる。

【市民I】

雨水を地下に浸透させる考えはないか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎の屋上の雨水は、貯留し、再利用する計画としている。地面に降った雨水は、浸透するよう計画している。浸透枳については、大きな浸透枍をつくるのではなく、小さな浸透枍を浅い建物際に埋める想定としている。オーバーフロー分は、緑中央通りの下水本管へ流す計画としている。

【市民I】

中水槽はどの程度の水が貯められるか。

【株式会社佐藤総合計画】

中水槽は200 m³程度の水が貯められる計画としている。

【市民I】

小金井市の地下水及び湧水を保全する条例において、市の管理する公共用施設の整備に当たっては率先して雨水の地下浸透を図るものとし、自然な地下浸透を図るとしているが、今回の計画での考え方はいかがか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

地下水等については、地下水保全会議に意見照会することになる。また、まちづくり検討部会において、開発指導要綱や地下水保全条例での指導、助言をする体制を構築している。その上で、法規制等に沿った形で整備を進めていくことと考えている。昨年12月に開催した地下水保全会議にて、設計内容を説明し、意見を伺った。また、今後開催される地下水保全会議において、設計の進捗に合わせて、適宜、説明したい。

【市民J】

南側には窓がないのか。火災時の避難経路に問題はないのか。また、(仮称)新福祉会館の調理実習室と隣の多目的室は行き来可能なのか。

【株式会社佐藤総合計画】

南側は、プライバシーに配慮して基本的には壁を主体としたデザインとしているが、一部ガラスとし、光が入るように計画している。避難経路は、階段で行う。建物内の3つの階段と外部階段から避難できる計画としている。(仮称)新福祉会館の調理室の隣は視聴覚室となっており、防音設備のある設えを想定している。行き来については、検討していきたい。

【市民K】

できるだけ徒歩か自転車に来てほしいと呼びかけを行うなどの政策を掲げ、駐車台数を減らして、憩いの場を増やすことはできないか。

【市長】

駐車台数は、現状の実績等から算出したものである。公用車の削減に向けた検討を進めており、現在、当初の計画より2台削減できる見込みとなった。福祉の観点からも一定の駐車台数の確保は必要だと考えている。その中で、ひろばを確保したいという市民の方々の意見があり、臨時駐車場として、通常時はひろばとして活用できるような空間を計画している。一方、コミュニティバスのルート見直しを行っており、庁舎建設予定地内に入れるようバス停を計画している。交通アクセスの利便性を高めていきたい。

【市民L】

防災について、吹抜けによる火災のニュースがあったが、吹抜けの火災対策はどのように考えているか。また、示されている概算費用は、人口に対して妥当な金額なのか。

【株式会社佐藤総合計画】

吹抜けには防火シャッターを設置し、火災時には速やかにシャッターが閉まり、煙が広がらないことを考えている。自然換気を促進するエコボイドも火災時は防火シャッターにより煙が広がらないように計画している。概算費用は、現在の物価を基にしている。庁舎は防災拠点となり、免震構造としている。

ため、一般的なオフィスビルよりはグレードが高いものとなる。国土交通省による仕様に則っている。建設費は、実施設計においても物価変動等に注視しながら検討していきたい。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

コストについては、設計者が算出した概算費用に対し、コンストラクションマネージャーにもご協力をいただき、周辺自治体での建設物価単価とも照らし合わせ、他市に比べ高いというわけではないことは確認している。また、労務単価は、平成9年度以降で最高値となっており、施工会社の作業員の単価も上がってきている。今後、実施設計等を通じて、概算費用の精度を高めていき、入札に耐えうるような金額を出していくことになるが、進捗に応じて、市の財政フレームの中でしっかりチェックしていきたいと考えている。

【市民M】

市報特集号の平面計画の縮尺はいくつか。

【株式会社佐藤総合計画】

紙面レイアウトに合わせて、サイズを調整しているため、正確な縮尺は提示できない。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

今後、基本設計の取りまとめに際して、設計者と調整を行い、縮尺が入ったものを市ホームページ等で公表できるように考えたい。

【市民N】

市民が学習や活動できるような場はあるか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎と（仮称）新福祉会館の中央付近にマルチスペースを計画しており、そこではテーブルや椅子を配置し、市民活動に使用できるようにしたいと考えている。1階の執務室カウンター前の待合スペースは、執務室とセキュリティをシャッター等で明確に分けることにより、閉庁時にも市民利用できる計画としている。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

庁舎は午後5時15分に閉庁するが、（仮称）新福祉会館は午後10時まで開館している。1階部分の待合スペースは、閉庁時にも開放できるように、セキュリティの確保や管理運営を考えてまいりたい。

【市民F】

清掃関連施設が残っている段階での駐車場はどのようにするのか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

具体的に確定しているわけではないが、工事期間中の仮設の駐車場について、JR東日本八王子支社に申入れをしている。必要な台数、時期、期間等が決まった段階で詳細な協議を行う予定である。

【市民C】

災害ボランティアの活動の場として、各部屋の転用をどのように考えているか。

【株式会社佐藤総合計画】

（仮称）新福祉会館の多目的室等を市民ボランティアの活動拠点として利用することを計画している。

【福祉会館等担当課長】

災害時は、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げる。多目的室を転用し、活用することを想定しているが、施設内だけで対応ができない場合のことも想定し、社会福祉協議会とともに検討していくものと考えている。

【市民O】

庁舎の南側から見えるのはマンションの出入口だけであるため、窓を増やしてもよいのではないかと。職員の労働環境というものも考えたほうがよいのではないかと。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

ガラス面を多くすると太陽光の反射等での光害も配慮していかなければならないと考えている。光の取り方については、建築基準法や事務所衛生基準規則等を踏まえた設計をしていく。

【株式会社佐藤総合計画】

環境配慮の面から、エネルギーを使わない建物にしたいと考えている。エネルギーをなるべく使わなくてもよいように、空調によるエネルギーを多く使うことになる南側については、壁を主体とすることで、環境面に配慮した計画としている。

【市民P】

（仮称）新福祉会館にある福祉総合相談窓口は、どのような内容を想定しているか。

【福祉会館等担当課長】

福祉総合相談窓口は、庁内で検討を行ってきており、昨年の10月に検討結果を出している。様々な課題を抱えた方に寄り添い、解決に向けて支援していく考え方は変わらない。生活困窮者の自立サポートセンターの機能を拡大していくことを考えている。コーディネーターのような形で包括化推進員を配置し、強化していく。令和2年10月から試行的に取り組み、(仮称)新福祉会館竣工時に本格稼働する考えである。

【市民F】

災害には日頃の備えが必要と考えているが、ひろばで防災訓練ができないか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

市では、庁舎を防災拠点として、防災機能の強化を図っていくこととし、災害対策本部を設置し、発災時の機能転用も検討している。それらが、発災時に運用できるような訓練は必要になってくると考えている。

【市民B】

小金井市は人口が増えていくと思っているが、今後、人口が増えたとしても対応できる庁舎となっているか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

職員数は、平成31年4月現在の職員数を基準に設計を進めている。今後の人数の増減や組織改正等に対応できるようユニバーサルレイアウトを採用している。小金井市の人口は、増加傾向が続いている状況であるが、全国的には減少傾向にあり、将来的には、小金井市も人口減少、市税収入の減少等も考えていかなければならない。こうした視点を持ちながら検討を進めていきたいと考えている。

【市民H】

ランニングコストの想定はあるか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

ライフサイクルコストについては、設計者からの技術提案の中でも考え方が示されている。ランニングコストを標準型の庁舎と比較していくのか現庁舎と比較していくのか等、色々な比較の仕方があると考えている。どういった取り組みができるのかは設計者と協議してまいりたい。

【株式会社佐藤総合計画】

エネルギーについては、高断熱な建物とし、小金井の水や光や風といった自然を活用し、竣工後の使い方にもよるが、標準型の庁舎と比較して、約40%のエネルギー削減に取り組みたい。

6 閉会

— 以上で、閉会 —